地方だより

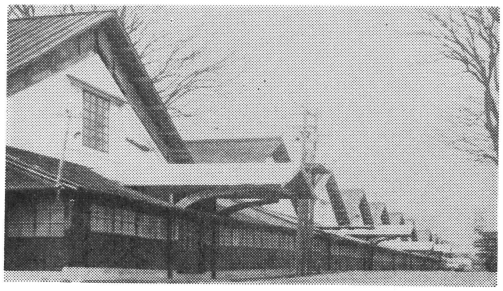
酒田測候所

酒田測候所

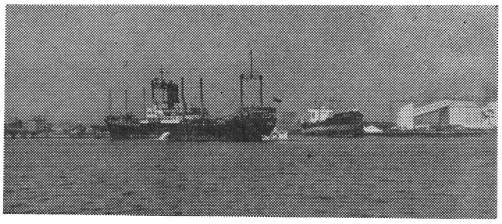
酒田市内の神社の数を調べてみると，稲荷神社が一番多く33で第1位，次は秋葉神社の15であるという．わずか，人口10万の小都市に稲荷神社の33はやはり多いように思う．この稲荷神社の多い理由は百万石庄内の要に当る酒田に，米が集められ，この米は最上川の支流である新田川沿いに立ちならぶ山居倉庫に納められた．このため，稲倉魂命を祀る稲荷神社が多く，特に，新田川沿に多いのだといわれている．

庄内は昔から稲の単作地帯であり，稲の豊凶は死活の問題であった．明治35年や大正2年は山形県の歴史的な大凶作で，誠に深刻なものがあった．このため，当地方の農民は天候に関して大変関心が深く，長期予報や週間予報の利用度も非常に高い．特に週間予報は有料配布しているほどである．

ところが，最近は産業の急速な発展とともに農家の人口は年々減少するばかりで，このまゝでは経営が成り立たなくなる．そこで，農業の近代化が叫ばれ，大型機械の導入による省力栽培が真剣に考えられるようになった．昨年は6月，7月と日照が大変少なく，このため，葉イモチ病が蔓延し，ヘリコプターによる農薬散布があ



山居米穀倉庫



大型船ににぎわう酒田港

ちこちで行なわれ，風向・風速及び天気の詳細な週間予報が望まれた．将来，機械化農業が本格的に行なわれるようになれば，更に，新たな要求が増加すると考えられる．

次に秋葉神社の15であるが，当地方は風が強く，元和年間酒井氏入部以前は「坂田」あるいは「砂潟」と称せられ，そのころは，日本海から吹く季節風は海岸の砂を含んで町や田畑を襲い，人家や田畑に大きな被害を与えた．現在では，海岸に松の防風林が植えられ砂の飛来はなくなったが，風は今でも強く，酒田は昔から火災が多かった．このため，火伏せの神である秋葉神社を祀ったのだという．大正にはいって，火災は少なくなったが，最近は石油コンロや石油ストーブが普及し，出火件数は県一となった模様で，風の強い酒田では困ったことである．

金毘羅神社，船玉神社等の海上安全の神様は第3位となっているが，昔は西廻り東廻りの船路の要港として栄え，海難もかなり多く，そのうえ，変化の激しい日本海でもあるので，何よりもまず，天候が気にされたはずである．それにもかかわらず，海上安全の神が第3位とは，何か割りきれないような気がしないでもないが，現在，市では港の整備に力を入れ，大型船や外国船が入港するようになった．また漁船も裏日本にしては多い方で，当所の協力も海上や港に関するものが非常に多い．この傾向はソ連や中共との共産圏貿易がはじまれば，益々増加することであろう．　（石山耕一記）

コンバインによる刈取り脱穀